

茶草場の昆虫 その4

トンボ目

福井順治

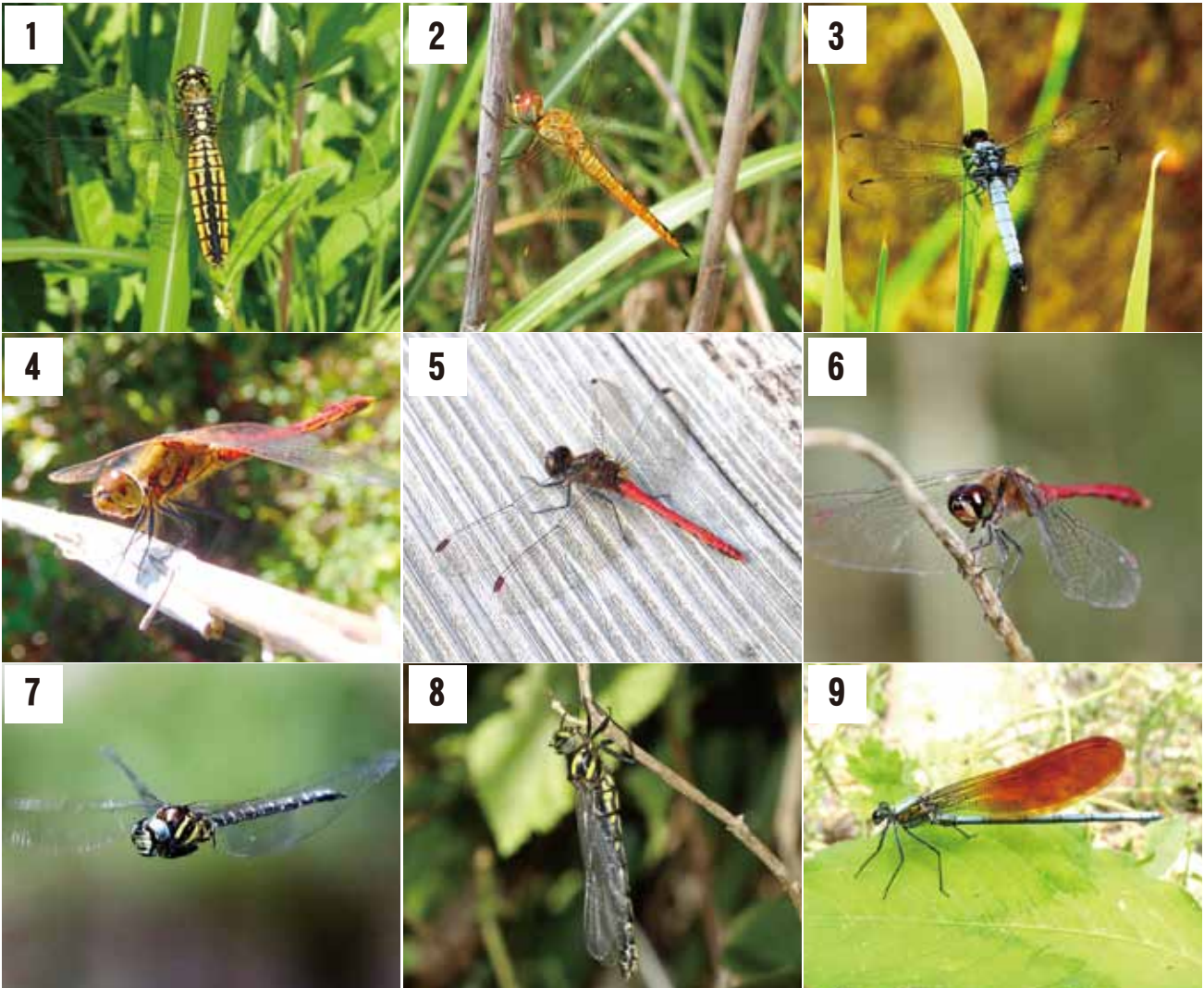
2018年～2023年に行った菊川市、掛川市、島田市川根町、川根本町の4市町の茶草場とその周辺地域の昆虫相調査のうちのトンボ目の報告である。

① 菊川市上倉沢

上部はネザサ群落にコナラ、クヌギ、サクラなどの落葉広葉樹が点在する緩斜面で、周辺に茶園など耕作地がある。下部の棚田及び休耕田の周辺にも小規模なネザサやススキ群落があり、茶草場として利用されている。標高は上部でも100m程度で全域が棚田状となっ

ているが、周囲には樹林もあって植生、地形などでは比較的多様性に富んだ環境となっている。

ここでは調査した4地域のうち最も多い24種のトンボ類が記録された。棚田がトンボ類の幼虫（ヤゴ）の成育場所となっているため、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボなどの個体数が多く、アキアカネ、ヒメアカネ、マユタテアカネなどのアカトンボ類もよく見られる。また、近接した一級河川「菊川」とその支流から飛来したと思われ



茶草場のトンボ：1：ハラビロトンボ，2：ウスバキトンボ，3：オオシオカラトンボ，4：アキアカネ，5：ヒメアカネ
6：マユタテアカネ，7：ルリボシヤンマ，8：ムカシトンボ，9：アサヒナカワトンボ

るアサヒナカワトンボ、ミヤマカワトンボ、ヤマサナエ、コヤマトンボも記録された。

② 掛川市粟ヶ岳・東山

粟ヶ岳は標高 514mのハイカーに人気の山であり、南面上部の斜面地にある登山道や車道に沿って生育するススキとネザサが茶草場となっている。山頂は南東部が開けていてスギ・ヒノキの植林とアカガシなどを交える常緑広葉樹の暗い森になっている。東山は粟ヶ岳に近い茶園地帯の北斜面のネザサ群落であり、クリ、サクラ、ヤマナラシなどが点在する。標高 200m程度で斜面には水がしみ出ている湿地状のところもある。

上部で記録されるトンボ類は移動性の強いアカトンボ類とウスバキトンボがほとんどであった。しかし、下部の谷筋の流水域から飛来するアサヒナカワトンボ・ミルンヤンマや山地性のルリボシヤンマも記録された。

③ 島田市川根町葛籠

標高 600m～700mの周囲を樹林に囲まれた伐採跡地の 2ha ほどのススキ原で、茶草場として利用されている。ススキ原の内部は乾燥していて植生の多様性は乏しい草地である。周囲はスギ、ヒノキの造林地のほか、タブノキ、アカガシなどの常緑広葉樹とリョウブ、ヤマザクラ、コナラ、カエデ類などの落葉広葉樹林となっている。

記録されたトンボ類は移動性の強いアキアカネとウスバキトンボが大部分を占めた。調

査地の近くには池沼や河川などの水域はないが、少数ながら移動してきたと思われるアサヒナカワトンボ、ムカシトンボ、オニヤンマ、ルリボシヤンマも記録されている。

④ 川根本町尾呂久保・上長尾

上長尾は標高 600m～700mほどのところにある、スギ・ヒノキの伐採跡地を利用した狭い面積の草刈り場であり、おもにススキを利用している。尾呂久保も集落に隣接した小面積のススキを主体とした採草地であり植物相は貧弱である。近くに「オロチの池」がありトンボ類にとっては重要な発生源となっている。

ここでも移動性のアキアカネ・ウスバキトンボの記録が多いが、「オロチの池」で発生している山地性のルリボシヤンマやオオアオイトトンボ、タカネトンボ、リスアカネが記録された。

以上の 4 地域をまとめるとトンボ目では 10 科 33 種を記録した。上にも述べたように多くは水辺の環境が乏しい場所であるため、菊川市上倉沢と尾呂久保の「オロチの池」を除けば住み着いている種は少なく、各所で確認された代表的なトンボは、移動性が特に強いことで知られるアキアカネとウスバキトンボであった。茶草場のような草原はトンボ類にとっては餌を捕食する場所であり、少数だけ記録された他の種も摂食のために移動してきたと思われる。

茶草場で記録したトンボ類 科別種数

	上倉沢 (菊川市)	粟ヶ岳 東山 (掛川市)	葛籠 (島田市 川根町)	尾呂久保 上長尾 (川根本町)	全部の地域 重複しない 記録種数
アオイトトンボ科	1			1	1
カワトンボ科	3	2	1		3
イトトンボ科	2				2
ムカシトンボ科			1		1
ヤンマ科	3	5	1	1	7
サナエトンボ科	1		1		2
オニヤンマ科	1	1	1		1
エゾトンボ科				1	1
ヤマトンボ科	1	1			1
トンボ科	12	8	5	5	14
計	24	17	10	8	33